



子どもの病院へのかかり方を見直してみよう 受診は体制が十分に整った昼間に

昼間から症状が出ているのにあえて夜間に市立病院の救急外来を受診する小児患者が増えています。中には緊急の処置を要しない軽症の患者さんが多く、ですが、夜間や休日は医療スタッフが少人数のため、行うことができる検査が限られるなど、通常の診療時間帯と比べると十分な診療を行うことはできません。夜間や休日に慌てることのないよう、身近に「かかりつけ医」を持ち普段から受診することで、病気の早期発見や予防につながるようになります。子どもの病院へのかかり方を見直してみよう。

まずはかかりつけ医へ

市立病院小児科は肺炎や脱水など、重症な患者さんの入院診療に力を入れています。これは市内に小児の入院診療を行っていない施設が市立病院以外にないからです。また、CTやMRI、脳波、超音波などの高度な検査機器も整っているため、けいれんや心雑音などの詳しい検査が必要な子どもへの診療も担っています。

子どもが病気になったとき、最初から市立病院を受診する方がいますが、まずは身近な「かかりつけ医」を受診すると安心



昼間の受診をおすすめします

です。地元の診療所や医院、クリニックにはこれまで軽症から重症まで数多くの子どもを診療したベテランの医師がいます。このような身近にいる医師を「かかりつけ医」として持ち、普段から受診することで、子どもの健康状態や生活環境を把握してもらうことができ、より適切な治療やアドバイスを受けることができます。また、病気の予防や早期発見・治療にもつながります。

これらの医療機関が診療を行っている時間帯は、医師や看護

医療機関ごとの特徴

医療所、医院、クリニック

- 数多くの症例を診察してきたベテランの医師
→ 「かかりつけ医」
- 健康相談、育児相談など
- 軽度の病気やけがなど



必要に応じて紹介

市立病院

- 入院治療
- 二次救急
- 専門外来
(小児科の場合、心臓・神経・腎臓・アレルギー外来など)
- 「かかりつけ医」からの紹介患者さんの外来



早く飲めば早く効く？



クマガイこどもクリニック
院長 熊谷 昇

市立病院の救急外来で準夜帯に小児の診療をしていると、軽い風邪や鼻水などで受診してしまおう方が多いように感じます。「風邪薬は早く飲めば早く効く」と多くの方が思い込んでしまっているようです。しかし、現在の医療レベルでは風邪の原因はウイルスですが、ウイルスを早く体の外に出す薬は存在しないのです。総合感冒薬の中には咳止め、鼻の薬、解熱剤が入っています。しかし、強い咳止めは肺炎の原因になります。鼻の薬も風邪に有効

でないばかりか副作用で心臓に負担をかけることがあります。解熱剤を飲むと体が微生物と戦わなくなり、ウイルスは2、3日長く体の中に残ることになります。アメリカでは多くの州で子供の総合感冒薬の販売は禁止されています。風邪薬は全く効かないばかりか、子供の場合はまれに副作用で亡くなってしまいうことがあからずです。夜間に風邪で救急に早くかかる必要はありません。慌てず昼間、かかりつけの医療機関を受診してください。

急病の時は市立病院へ まず電話で相談を

それでも夜間や休日に急病や緊急を要する場合は、市立病院を受診してください。その際は直接来院せず、まずは電話での相談をお願いしています。市立病院では小児科医師の指導のもとで看護師が電話で症状などを聞き、対処方法を説明しています。

また、埼玉県では小児救急電話相談を開設し、子どもの夜間の急病の際に医療機関への受診の要否や応急処置の方法を助言しています。電話番号は局番なしの「#8000」で、月々土曜日は午後7時から午後11時まで、日曜・祝日・年末年始は午前9時から午後11時まで相談に応じています。

小児夜間救急センターを開設

市立病院では安定した小児医療を提供できるよう、草加八潮医師会のご協力のもと、週2、3回午後7時30分から午後10時

30分まで、同医師会に所属する医師に市立病院の小児救急診療に参加いただいています。そして、平成24年度からは病院敷地内に設置される(仮称)小児夜間救急センターで、同医師会に所属する医師によって小児の一次救急診療が行われる予定です。

同センターで医師会所属医師が診療を行い、検査や入院が必要な患者さんについては市立病院に紹介し、市立病院小児科医師が二次救急診療を行います。患者さんの症状によって医師の役割を分担することで、医師の負担を軽減できるほか、市立病院の本来の役割である重症の患者さんへの手厚い救急医療の提供が期待されています。同センターでは原則として、来院した患者さん全員に診察を行う予定です。しかし、医療スタッフ数など診療体制の面からも安心して医療を受けるには昼間が一番です。夜間や休日に慌てないよう、身近に「かかりつけ医」を持ち、普段から受診することをおすすめします。